書殿にして餞酒する日の倭歌四首

八七六番

天飛ぶや　鳥にもがもや　都まで　送りまをして
飛び帰るもの

八七七番

人もねの　うらぶれ居るに　竜田山　み馬近付か
ば　忘らしなむか

八七八番

言ひつつも　後こそ知らめ　とのしくも　さぶし
けめやも　君いまさずして

八七九番

万代に　いましたまひて　天の下　奏したまはね
朝廷去らずて